

◁2002年度会長挨拶▷

2002年放射光学会活動方針

日本放射光学会会長

太田 俊明



私が会長をお引き受けして1年が経ちました。21世紀最初の年は、アメリカの同時多発テロ、アフガン戦争、我が国においても経済の落ち込み、失業率の増大、狂牛病など暗いニュースが多い年でした。しかし、これも単に運が悪かっただけではなく、これまでの放漫な政治、行政の付けを払わされているように思います。構造改革がどこまで進むか分かりませんが、今年こそ、明るいニュースが溢れることを祈っています。

さて、放射光学会この1年を振り返ってみると、世紀の節目ということもあり、最重要事項は、特別委員会を設置して我が国の放射光のグランドプランを策定する議論を始めたことが挙げられます。上坪先生に委員長になっていただき、15名の委員を選出し、すでに6回の会合を開いて議論を重ねています。その中で緊急の課題は軟X線・極紫外の高輝度光源の建設計画です。現在、世界の放射光施設と比較して最も遅れているのは、軟X線・極紫外の高輝度光源であり、これを長年にわたり東京大学、東北大学が要求していました。しかし、なかなか決着が付かない状態が続いており、これをなんとか一つの計画にまとめて、実現への道を開ければというのが願いでした。幸い、KEKを含めた3者協議でこの問題が議論され、一本化するところまでこぎ着けましたが、この緊縮財政の中で計画が認められるかどうかはまだ予断を許さない状況です。特別委員会は、これまで委員に少なかった硬X線利用者、加速器関係者を新たに5名加えて、今年、さらに10年後の我が国の放射光施設、放射光科学のあるべき姿を議論することになります。しかし、この重要な問題は委員だけに任せて良いものではなく、開かれた議論の場を設けますので、多くの会員の積極的な参加を期待しています。なんとしても、10年後に我々の無策のつけを次の世代の人たちに払わせることは避けたいと思います。

議論すべき大きな課題は既存施設のPFやUVSORの更新、地域型の施設の整備、そして、新世代の光源といわれるX線自由電子レーザーやエネルギー回復型ライナックの開発にどのように取り組むかでしょう。しかし、現在の我が国の経済状況をみると、学会が無制限にこれらの計画の後押しをすることも節操が無いように思われます。本学会の初代会長、高良先生の名言集に「お先にどうぞ」という言葉があったと記憶しています。「譲り合いの精神」こそ結局は計画実現の早道ではないかと思えてなりません。今、我々に要求されることは、それぞれの立場から出るエゴを捨てて、少しずつでもこれらの計画が認められていくよう知恵を出し合うことではないでしょうか。今後、徹底的な議論を行い、今年中に我々の見識を学会、政府に出したいと考えています。一方、ハードウェアだけでなく、ソフトウェアの将来計画も必要です。後継者の養成、放射光利用産業の育成、国際的な広報、啓蒙、支援活動も今後の大きな課題になると思われます。

さて、昨年初めに公約しました件について現状と今年の目標を述べます。

第1は、年会・合同シンポの見直し問題です。前期にも何度か検討されてきた問題ですが、ご存じのように、毎年1月に開催される学会は日本放射光学会年会とPF, SPring-8, UVSOR, Super-SOR 4団体のシンポジウムと合同という形態で開催されています。見直し問題の発端は学会費、登壇資格にありました。現在、放射光学会会員でなくても上記4施設のスタッフ、あるいは、施設の利用者懇談会メンバーであれば学会員と同等の会費にし、登壇資格も与えています。年会費無料の懇談会があること、スタッフの定義が曖昧であること、今ではそれ以外にも放射光施設が建設され、さらに、自由電子レーザー施設まで入れると、合同シンポを始めた頃から大きく様変わりしました。いろいろな議論があってもまだ結論は出ていませんが、放射光学会が単なる寄り合い所帯ではなく、放射光を用いた科学の発展を願う共通の意識を持った学会として成長すれば、この問題は自然解消するのではと期待しています。

第2は会員増の問題です。少しずつ増えて現在1200名弱になりました。ただ、重要なことは会員の中身であろうと思います。物理学会や、化学会と違って、放射光学会は方法論でまとまった学際的な学会ですから、研究テーマが変わると離れてしまう人も多い。やはり、放射光科学をライフワークにしている人達が増えてもり立てていく努力をしない限り、これからの発展は難しいと思います。その意味でも、放射光の有力ユーザーや施設のスタッフは全員放射光学会に入会し、自分たちの学会という認識を持っていただきたい。そのための説得活動が今年の一つの課題と考えています。

第3は学会誌年6回発行の件ですが、懸案であったこの問題を事務局と編集委員会の努力で、経済的な負担増無しに今年から始めることになりました。学会誌は学会の顔ですから、今後とも内容を充実させて皆様のお手元に届けるようにしたいと思います。

最後の問題は学会のホームページです。まだ完璧とはいえませんが、かなり充実し、特別委員会の報告や、会員の声を載せるコーナーを設けました。まだ、一度もホームページを開いたことの無い人は、是非一度見て下さい。<http://www.ijnet.or.jp/JSSRR/>です。そして、どしどしご要望なりご意見を下さい。残りの任期一年間、放射光学会の活性化のために微力ではありますが尽力するつもりですので、よろしくご協力お願いいたします。